

寺院活性化支援室 ～支援事業のあらまし～



真宗教化センター寺院活性化支援室

～「お寺があってよかった」が聞こえる未来を創る～

「お寺、このままで良いんだろうか…、気になってるけど、どうしたら良いんだろう…？」

寺院活性化支援室は、そのような声に呼応して生み出されました。

現状維持はままならず、変わりゆく世の中で、変わらない大切なことを、現代にどのように表現していけば良いのでしょうか。

その答えは1つではなく、実はお寺の数だけ存在します。千差万別の環境に在るが故に、そのお寺「らしさ」はそれぞれに違って在るからです。

寺院に関わる人たち自らが選択した、主体的な未来への一步を、隣で一緒に踏み出したい。そう強く思い活動しています。

「真宗門徒の1年は、報恩講に始まり、報恩講に終わる」

報恩講という仏事の大切さを端的に表現した言葉です。

真宗教団は「報恩講教団」と言われてきましたが、ある調査によると、「報恩講」という言葉の認知度は68.1%となっており、所属寺の報恩講への参拝は29.2%と低いのが現状です。

この要因は様々にありますが、いずれにせよ、今のまま何も変わらなければ、人口減少とともに右肩下がりになっていくことが予測されます。2024年1月に行われた第8回「教勢調査」では、「この10年の間で参詣人数が減った」と回答する寺院が7割を超えるなど、状況は深刻度を増しています。

また、仏道を歩む先に描かれた未来像は、寺院と深くご縁のある人のみに留まり、広がりを期待することは困難な状況にもあります。

「そもそもお寺って何だろう？」

仏教の目的は、老・病・死の中であつても、一人ひとりにおける現実を受け止め、人生をより丁寧に、より豊かに生きていくことであり、それを宗祖の教えにたずねていく場が「真宗寺院」です。

私たちは「願わくは、この功德をもって、平等に一切に施し、同じく菩提心を発して、安楽国に往生せん。」と、勤行の終わりに回向文を詠み、仏道を歩む先に実現したい未来像を共有し、三打目の磬が鳴り響く中、本尊に合掌し、「南無阿弥陀仏」と声に出します。真宗寺院と深くご縁のある人にとっては、馴染みのある光景として認識されていることでしょう。

どれだけ環境が変化したとしても、仏道において、未来に求めたい世界観は変わらないはずであり、苦悩の世を生きる人々にとって、念仏往生の道が、確かな依り処となって生きてはたらくことを願ってやみません。

「人間は、お寺は、どこまでも未完成」

なぜならそこに、その時々「今」を生き、地域の方々と動き続け、表現し続ける歩みがあるからです。お寺には元来、共に考え悩み、共に念仏申す人の存在があります。

宗祖が『教行信証』の末に、「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え。連続無窮にして、願わくは休止せざらしめんと欲す。無辺の生死海を尽くさんが為の故なり」と『安楽集』の文を引かれた精神が、当に具現されていくのです。

次の50年へ、教えが、お寺が、一人ひとりによって手渡されていくお手伝いをさせていただきます。

「お寺らしさ」を
ともに見つけ、
歩みだすお手伝い
それぞれに異なるお寺のかたち。
私たちは、ご縁が広がる場づくりをめざし、
「お寺らしさ」が息づく一歩を、
門徒や地域とともに歩むお手伝いをします。

Scroll

お寺の魅力を、未来へつなぐサポートを。
活動事例や支援内容でわかりやすく掲載。
リニューアルした寺院活性化支援室の公式 Web ページを
ぜひご活用ください。

<https://jodo-shinshu.info/support/>



お知らせ一覧

お寺の活動事例集

2

SUPPORT

支援事業

講座・セミナー

場づくりワークショップ

青少年教化支援

過疎地域への
法要・法話支援

特別支援

すべての支援事業を見る

目 次

寺院活性化支援とは	2
組織体制	3
寺院活性化支援員とその養成	4
支援事業1 - 元気なお寺づくり講座	6
支援事業2 - 寺報・文書伝道セミナー	9
支援事業3 - お寺のホームページ開設支援	11
支援事業4 - お寺で活きる傾聴セミナー	13
支援事業5 - 動画で学ぶ！お寺の会計入門	15
支援事業6 - 場づくりワークショップ	17
1 対話型寺院運営ボードゲーム「別院会議」～あなたの次世代へつなぐ～	17
2 真宗トーク（コミュニケーションカード / オンラインアプリ）	19
3 言葉でふれあうトーク・フォークダンス	20
4 ワールド・カフェ	21
5 人生グラフ（グラフで語る 出会いと気づきの人生物語）	22
6 お寺版 三方よし	23
支援事業7 - 青少幼年教化支援	24
関連プロジェクト1 - ひとりからはじめる子ども会講習会	26
関連プロジェクト2 - 若者教化立ち上げ応援プロジェクト	28
支援事業8 - 過疎地域対象の法要・法話支援	30
支援事業9 - お寺の法宝物調査支援	32
支援事業10 - 解散寺院の仏法継承支援	34
よくある質問	36

寺院活性化支援とは

お寺の環境は千差万別にあります。私たちの取り組む「活性化」の意味するところは、「そのお寺らしさが発揮される」ことです。

「こうあるべきお寺」ということは想定しておらず、規模の大小に関わらず、そのお寺らしさを、生活する寺族や門徒、地域の人たちが一緒に再発見して、一步を踏み出すことが「活性化」であり、そのお手伝いをします。

1 寺院活性化支援室のミッション・ビジョン・バリュー

◆ MISSION（使命）

仏法を聞くご縁がひろがるお寺の場づくりを支援する

◆ VISION（将来像）

「お寺があってよかった」が聞こえる未来を創る

◆ VALUE（考え方）

- 1 独自性 1カ寺ごとの個性とお寺らしさを大切に支援します
- 2 共感性 門信徒やこれから初縁を結ぶ人に共感してもらえるような活動を支援します
- 3 宗教性 真宗寺院ならではの伝統された仏事の意義が伝わる視点を大切にします
- 4 継続性 お寺の繁栄につながる共創の視点で具体的な取り組みとなるよう支援します
- 5 未来性 未来を起点に考え・発想する視点を大切に支援します

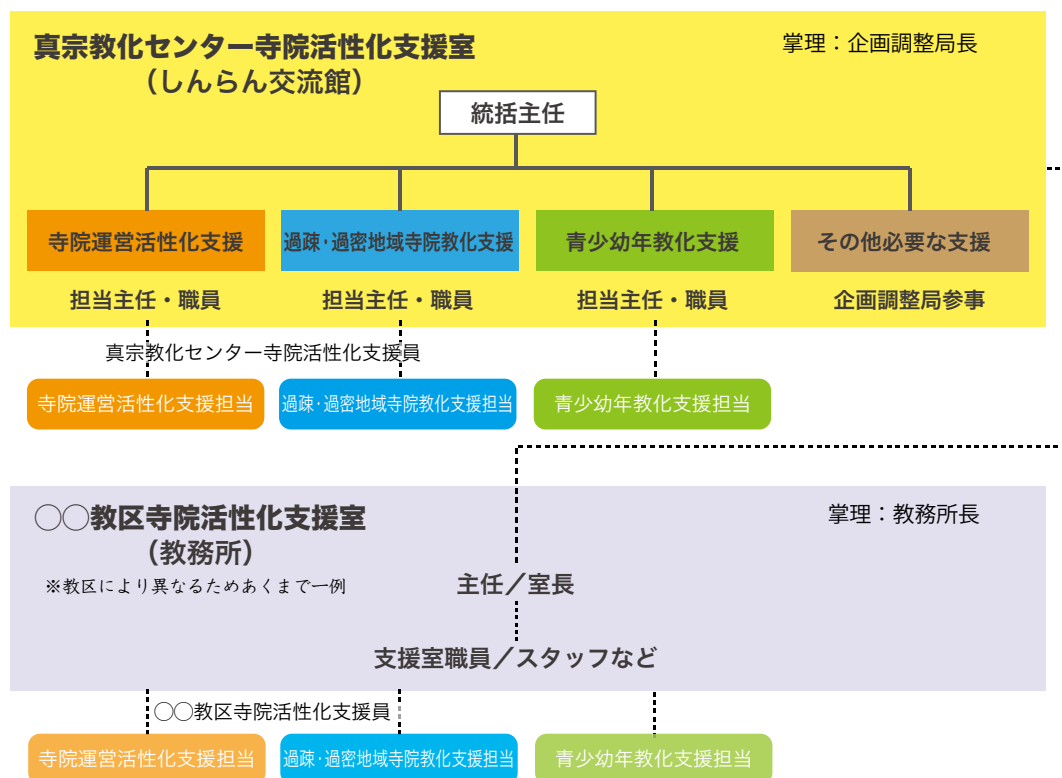


寺院活性化支援室のチラシ・パンフレット

<https://jodo-shinshu.info/support/tool/#c01>



組織体制



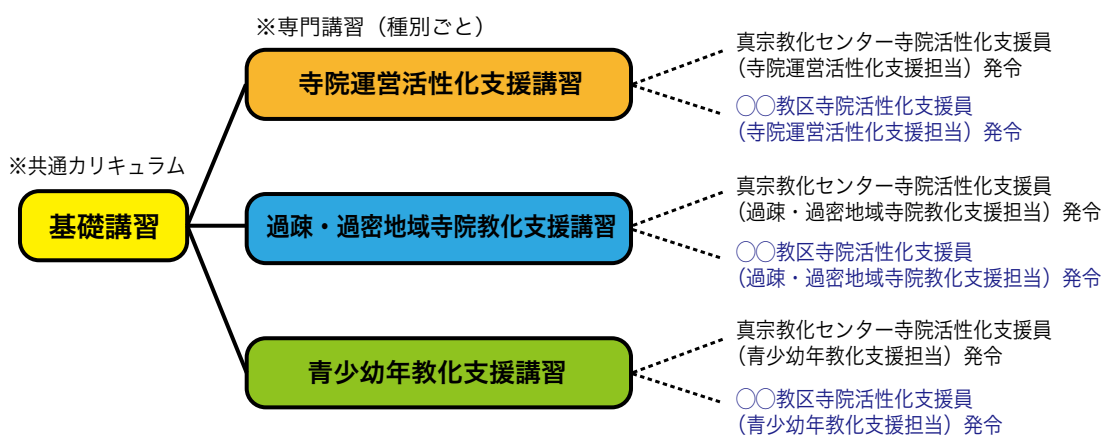
寺院活性化支援員とその養成

1 寺院活性化支援員とは

時代潮流の中で、お寺の取り組みにも多様性が求められるようになりました。このような時代であるからこそ、1カ寺の課題に丁寧に応えていくための人が求められています。そのために、お寺に出向いて現状をお聞きし、メニュー作りから伴走するために寺院活性化支援員がいます。

2 支援員講習の概要

寺院活性化支援員講習は、基礎講習と専門講習の2種で構成されています。寺院活性化支援員として活動するために必要な知識や手法を実践的に学びます。



※これまでの教区における青少年教化に関する実務経験を踏まえて、青少年教化支援担当の寺院活性化支援員を担っていただく場合もあります。詳しくは、真宗教化センター寺院活性化支援室までお問い合わせください。

（1）基礎講習

現場での「共創」の意識や企画立案の基本的な視点を学習するため、「元気なお寺づくり講座」のプログラムを受講し、「寺業計画書®」を作成します。

第1講	社会とお寺を取り巻く環境の変化を見てみよう
第2講	自坊の強みを見出し、お寺の使命を考えよう
第3講	お寺の将来像を描こう
第4講	伝わる企画を立案し、計画を具体化しよう
第5講	寺業計画書®発表

(2) 専門講習

内容は各担当種別（専門分野）に応じたカリキュラムで行います。

① 寺院運営活性化支援講習

「元気なお寺づくり講座」の講師として登壇するために必要な知識や技術を習得します。講義内容の力点・流れに加え、フレームワークの進め方や「寺業計画書[®]」に対する助言指導の視点などを学習し、模擬講義を通して実践的に行います。

第1講	「元気なお寺づくり講座」第1回から第5回までのプログラム解説と模擬登壇
第2講	
第3講	
第4講	コーチング実践ワークショップ・受講者課題の発表

② 過疎・過密地域寺院教化支援講習

人口移動が寺院に与える影響を知り、地域寺院の教化活動実施に必要な視点を養い、ヒアリング活動におけるコミュニケーションの基本を学びます。また、実習としてフィールドワークを行い、顕在・潜在的ニーズを抽出し、支援策立案の演習を行います。

第1講	過疎と過疎地域の現状理解
第2講	移動社会におけるお寺の苦境
第3講	教化力低下ループから見える示唆
第4講	移動者とのご縁づくり
第5講	傾聴－現場で生きる「きく力」－
1泊2日のフィールドワーク（過疎地域寺院の現地ヒアリングと支援策立案の模擬会議）	

③ 青少年教化支援講習

お寺に出向き、状況や悩みを聞き取るため、傾聴の技能を習得します。あわせて、宗門全体の青少年教化の現状や課題についても学びます。

第1講	一カ寺での青少年教化の意義－子どもや若者と出会う僧侶の使命－／寺院活動における青少年教化活動の実態と支援活動の実際
第2講	話を聴くということ－自己を知ることと傾聴法の基本（1）－
第3講	話を聴くということ－傾聴法の基本（2）－
第4講	【青少年教化支援の演習（模擬派遣）】

～僧侶と門徒が一緒にお寺の活動を計画し、未来を描く5つのステップ～

環境の変化に対応するためには、知識だけではなく、現場での実践と、住職・寺族・門徒が共に考え動く力が求められます。参加者がそれぞれの寺院の独自性や強みを掘り起こし、自坊ならば「何ができるのか？」を考える内容となっています。

- ・ 実践的なワークショップ形式：講義だけでなく、ワークショップを通じて、寺族と門徒が多様な視点を共有し、アイデアへ繋げます。
- ・ 全5回のステップ方式：1回ごとにテーマを設定し、段階的・多角的にお寺のあり方を考えます。最終的には「寺業計画書®」として、具体的な行動計画を作成します。

Figure 1: A schematic diagram of a 2D coordinate system for a 2D image. The diagram shows a large rectangle divided into four quadrants by a horizontal and vertical axis. The top-left quadrant is labeled "Top-Left" and the top-right quadrant is labeled "Top-Right". The bottom-left quadrant is labeled "Bottom-Left" and the bottom-right quadrant is labeled "Bottom-Right". The horizontal axis is labeled "X-axis" and the vertical axis is labeled "Y-axis". The origin is labeled "Origin". The diagram is labeled "Figure 1: A schematic diagram of a 2D coordinate system for a 2D image."

一度限りで終わる取り組みではなく、継続的な活動を支える計画となるようサポートします。

現代のお寺が直面している社会的な変化や地域の課題を考察します。人口減少、価値観の多

様化、地域コミュニティの変容など、環境の変化に着目し、寺院の立ち位置を再確認します。

- ・ ワークショップ：社会や地域の関係性の中でどのような変化が起っており、そこから何が見えてくるかを確認します。

第2回「自坊の強みを見出し、お寺の使命を考えよう」

お寺の歴史や文化、お寺を支える人々の意欲がいかに果たしているかを確認し、そのお寺ならではの強みを発見します。この強みを基に、お寺の使命を再定義し、今後の活動方針を考えます。

- ・ ワークショップ：寺院の潜在的な強みを「人」「組織」「関係性」の視点で整理し、「お寺の使命」をメッセージとして言語化します。

第3回「お寺の将来像を描こう」

これまでの学びを踏まえ、取り組みアイデアを基に、未来のお寺がどのような役割を果たし、何を実現したいのか、ありたい未来へとつながるお寺の将来像を描きます。

- ・ ワークショップ：機会や強みを参考に取り組みアイデアを考え、ありたい将来のお寺のすがたを言語化します。

第4回「伝わる企画を立案し、計画を具体化しよう」

受け手（教えを受け取る側・事業参加者）の視点に立った企画立案のための視点や手順を学びます。

- ・ ワークショップ：仮想寺院の事例を題材に、受け手目線に立った企画立案のトレーニングをします。

第5回「寺業計画書®発表」

これまでの講座で作上げた計画を「寺業計画書®」としてまとめ、参加者同士で発表し合います。お互いの計画をフィードバックし合い、最終的な行動計画を確定させます。

- ・ 発表会：寺院ごとの「寺業計画書®」を発表し、実行に向けて動き出す準備を整えます。

4 受講寺院の取り組み例

(1) 山陽四国教区 安芸南組 極楽寺：子どもが企画するお寺の行事

大人中心の事業が多い中で、子どもたちが中心となることで和やかな雰囲気になりました。演奏会や、学校で聞いてわからない言葉を掲示したり、子どもからの悩みについて大人がアンサーしてみたり。感話などの中に素直な言葉や大人が考えさせられる疑問などが聞けて、考えさせられました。

(2) 大垣教区 第8組 光永寺：口語表現の表白で法要と法話

自作の表白を配布すると、参拝者は熱心に読まれます。お内仏の荘厳と関連して浄土の世界や、身近な話題を入れて作成しています。法要の目的がわかり、好評です。

(3) 九州教区 日田玖珠組 西光寺：推進員主体の学習会

ワークショップをしてお寺への思いや、求めること、お寺でやりたいことなどの意見を出し合って始めました。荘厳作法を学習しながら、推進員自身が団体参拝を企画したり、アイデアを持ち寄ってくれるようになりました。推進員が次世代に橋渡ししていけることを目指しています。

5 参加者の声

僧侶の声：

- ・ 他寺との違いや、自坊の強みを明確にできました。
- ・ 従来のやり方が通用しなくなっている現実を再認識し、門徒と一緒に何ができるかを考える大切さを実感しました。

門徒の声：

- ・ お寺を考えるいい機会になりました。次はどう行動するかを考えています。
- ・ 今まで住職任せだった部分が多かったことを反省し、私たちも積極的に関わりたいと感じました。

6 よくある質問

(1) 1カ寺だけでも開催できますか？

1カ寺でも開催可能ですが、3カ寺以上での開催を推奨しています。他寺との違いや自坊の強みを発見するために、複数寺院での受講が効果的です。

(2) オンラインでの開催は可能ですか？

真宗教化センター寺院活性化支援室主催の「元気なお寺づくりオンラインセミナー」にて同内容を受講いただけます。

(3) 僧侶だけの参加は可能ですか？

寺院活性化には、門徒との「共創」が重要です。門徒と僧侶のペアでの参加をお勧めします。ただし、オンラインセミナーでは僧侶のみの参加も可能です。

7 申し込みの流れ

- ① 開催希望のお問い合わせ：まずは、寺院活性化支援室へご相談ください。
- ② 講座開催の準備：担当支援員を選定し、日程や内容の調整を行います。
- ③ 説明会やワークショップの実施：必要に応じて、体験会や説明会を開催します。
- ④ 講座の実施：参加者に必要な情報を提供し、講座をスタートします。

8 これまでの開催

こちらの取り組みレポートをご参照ください。

[<https://jodo-shinshu.info/category/genkinaotera/>]



9 お問い合わせ

受講相談、受講後のサポートなど、お気軽にお問い合わせください。

- 電話番号：075-371-9208（平日 9:00～12:00 / 13:00～17:00）
- メールアドレス：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp
- 寺院運営活性化支援担当

支援事業2 - 寺報・文書伝道セミナー

お寺の活動や真宗の教えをお伝えしていくための情報発信ツールとして、寺報をはじめとする文書伝道の役割はますます重要になっています。

本セミナーでは、文書伝道の概論として、内容構成、コンテンツの選び方から文章の書き方、デザインのコツ、パソコン操作・印刷に至るまで、実践的なノウハウを学び、寺報をはじめとした文書伝道物の作成をサポートします。

より魅力的で伝わる文書伝道を、共に考え、お寺と門徒、地域をつなぐ力を再発見できるよう支援します。

1 セミナーの目的

本セミナーでは、寺報をはじめとする文書伝道物を通して、お寺の魅力や伝えたい情報を効果的に発信し、より多くの人々に届けるためのノウハウを提供することを目的としています。文書伝道の概論を学んだ後、ワーク形式で実際に作業をしながら、寺報、チラシ、法語掲示などを完成にいたるまでサポートします。

2 セミナーの内容

下記のメニューから組み合わせてカスタマイズ（時間・回数等ご要望にお応えします）

①文書伝道の概論

文書伝道の考え方、コンテンツ選びなど基本的な考えをご紹介します。

②作成ワーク（パワーポイント・ワード・手書き）

寺報、チラシ、法語掲示などご要望に応じて、実際に作業をしながら完成にいたるまでサポートします。

※時間は概論のみの場合は1時間半程度。ワークを伴う場合は3時間以上が効果的です。

3 参加対象（こんな方におすすめ）

文書伝道に関心のある寺族・僧侶・門徒

- ・ 寺報を作りたいけど、何を書いていいのかわからない
- ・ パソコン（Microsoft 社の Word や PowerPoint）の使い方を丁寧に教えてほしい
- ・ 行事のチラシデザインがうまくできない

4 これまでの実績

これまでオンライン・対面で30回以上の講座を実施。特に少人数での対面講座では、寺報発行率100%など、成果を実感できる講座として好評です。

詳細な実績は、浄土真宗ドットインフォ（ホームページ）でご確認ください。

[[https://jodo-shinshu.info/tag/ 文書伝道セミナー開催 /](https://jodo-shinshu.info/tag/文書伝道セミナー開催/)]



『文書伝道マニュアル』



こちらからテキスト PDF をダウンロードできます

[https://jodo-shinshu.info/wp-content/themes/shinran/img/detail/hattuko/tayori_08.pdf]



5 問い合わせ・お申し込み

- 電話番号：075-371-9208（平日 9:00 ～ 12:00 / 13:00 ～ 17:00）
- メールアドレス：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp
- 文書伝道セミナー担当

支援事業3 - お寺のホームページ開設支援

現代では、インターネットでの情報検索が一般的となり、ホームページなどのウェブサイトが、その団体や組織の社会的信頼を示す要素となっています。これからの寺院活動においても、オンラインでの情報発信は大切です。

ホームページを通じて寺院の存在や活動を定期的に発信することは、次世代の門徒にとってアクセスしやすく身近な存在として再認識され、ご縁のない人に対しても、仏事の問い合わせや相談のきっかけづくりにもなります。

寺院活性化支援室では、寺院が現代のライフスタイルに適応し、社会的信頼を高めるための取り組みとして、お寺の“ならでは”を活かした独自のホームページを作成するプロセスを支援します。

1 ホームページ開設支援の目的

お寺のホームページ開設支援は、お寺の情報はじめ、その寺院ならではの強みや大切にしている理念を表現し、お寺の社会的信頼を醸成することを目的とします。

2 支援の特徴

お寺のホームページ開設にあたり、寺院のニーズに応じた2種類の支援内容があります。

① 名刺代わりの簡易的なホームページを Google サイトで作りたい（自身で作成）

→ 真宗教化センター寺院活性化支援室がサポート（無料）

ご自身で簡易的なサイトを作成される場合は、費用をかけずに作成できる Google サイトでの作成をお薦めしています。

② 独自ドメインの本格的なホームページを作りたい（委託して作成）

→ 宗派関係者の専門業者がサポート（有料）

宗派関係者が運営する専門業者を紹介し、サーバーの取得、ページ構成からデザイン、ページの公開にいたるまでを委託できるようにお繋ぎします。

ホームページ開設にあたり、寺院で準備しておく情報の整理に役立つ動画（2本）を公開しています。

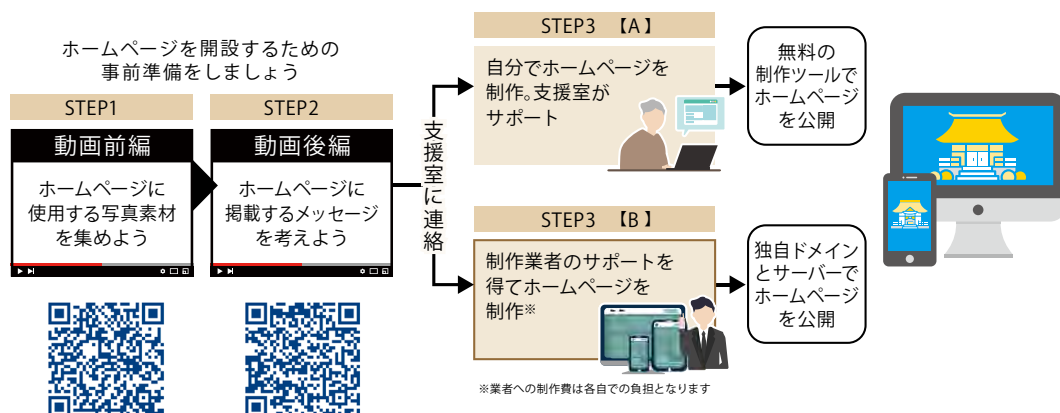
- ・ お寺のホームページを開設する意義の解説
- ・ 写真素材選択の視点を学ぶ（お寺の潜在的な強みを掘り起こそう）
- ・ キャッチコピー作成のための視点を学ぶ（お寺の使命を考えよう）

お寺らしさを掘り起こし、宗派関係者ならではのお寺に寄り添ったサポートができます。

3 ホームページ開設までの流れ

開設にいたる手順は、次頁の図のとおりです。

ホームページ制作の流れ



手順でお困りの際は、真宗教化センター寺院活性化支援室へお問い合わせください。

4 SNS 開設支援

facebook・TikTok・YouTube・X・Instagram・公式 LINE など、SNS の開設に関するご相談にも応じますので、お問い合わせください。

5 留意事項

- ・ Google サイトでホームページを作成する場合は、ご自身の責任で開設後の管理運営に努めてください。
- ・ Google 社の提供するサービスは、仕様変更となる場合がありますので、ご注意ください。
- ・ 不特定多数の方々がご覧になりますので、表現には十分ご注意ください。
- ・ 「個人情報の取り扱いと情報発信について」（宗派ホームページ：<https://www.higashihonganji.or.jp/privacy/>）をご参照ください。



6 お問い合わせ

- 電話番号：075-371-9208（平日 9:00～12:00/13:00～17:00）
- メールアドレス：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp
- ホームページ開設支援担当

関連セミナー（SNS 活用）

寺院における SNS の活用のための基礎的なセミナー実績もあります。
ご要望に応じて開催しますので、ご相談ください。

（福井教区寺族のつどいでの実施：<https://jodo-shinshu.info/2025/02/25/46518/>）



支援事業4 - お寺で活きる傾聴セミナー

かつてお寺は、地域の人々が日常的に集い、心を通わせる場として機能していました。お茶を飲み自然体で語らいながら互いの気持ちに寄り添う、そのような温かい交流があったのです。

しかし、現代では社会情勢の変化もあいまって、人間関係が希薄化し、寺院と門徒とのつながりも薄れてきています。

だからこそ、本セミナーでは「傾聴」を通じて、自分の対話力を見直し、相手の心に寄り添う力を磨く機会を提供します。相互の信頼関係を深め、温かいコミュニケーションの場を創り出すためのサポートをします。

1 傾聴とは

「傾聴」とは、「相手を受容してきちんと聴く」ことについて研究されてきた一連の手法を言います。

2 セミナーの目的

本セミナーでは、お寺が寺族と門徒のコミュニケーションを深める場として機能するために、「傾聴」の技術を初歩から学び、身につけることを目的としています。

傾聴を通じて、相手の気持ちに寄り添い、信頼関係を築く技術を習得し、心のつながりを大切にした温かな交流が生まれる一助となることを目指しています。

3 セミナーの内容

本セミナーは、オンライン開催の場合、以下のAとBに分けて実施します。

対面開催の場合（所要120分）は、ご要望に応じた内容で組み立てることができます。

A：傾聴とは何か？ -自分の「きき方」を知ろう- 120分

傾聴とは何か、基本的なことから学び確かめます。

また、簡単なワークを通して、対話の中にある普段意識をしていない、人の「情動」にフォーカスするトレーニングをします。

B：傾聴と教化 -きくことを通して得られるもの- 120分

真宗教化と傾聴の共通点について学び、様々なワークを通して、自身と相手の「情動」に気づくトレーニングをします。

α：個別傾聴

各回の全体日程終了後や希望される日に講師による個別傾聴を実施します（先着1名30分程度）。

※守秘義務により、話した内容は秘匿されます。

4 参加対象

傾聴学習に関心のある寺族・僧侶・門徒を対象としています。

オンラインは、1回10人程度（先着順）を目安に実施しています。

対面の場合は、人数を問いませんので、まずはお問い合わせください。

5 参加者からの声

- ・ 自分の気持ちと、頭で理屈的に考えていることが入り混じっていることがよくわかりました。
- ・ 日頃の自分の聞き方を見直すいい機会になりました。
- ・ 自分の気持ち、気づかないままに日常を過ごしていることがよくわかりました。
- ・ 日常において完璧に実践するには時間がかかるかもしれないが、早速、今から見つめ直してみたいです。
- ・ ワークは苦手だと思っていたが、とても楽しかったです。

6 これまでの実績

オンライン・対面合わせて20回以上開催し、200人以上の方が受講されています。

取り組みレポートは、浄土真宗ドットインフォ（ホームページ）でご確認ください。

[[https://jodo-shinshu.info/tag/ 傾聴セミナー開催 /](https://jodo-shinshu.info/tag/傾聴セミナー開催/)]



7 お問い合わせ・お申し込み

- 電話番号：075-371-9208（平日 9:00～12:00/13:00～17:00）
- メールアドレス：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp
- 傾聴セミナー担当

支援事業5 - 動画で学ぶ！お寺の会計入門

寺院の運営において、正確で透明性のある会計管理は欠かせません。お寺の財産は、ご門徒や地域の皆様からの大切な寄付やお布施で成り立っており、その責任は重たいものです。

この「動画で学ぶ！お寺の会計入門」では、『お寺の会計入門～お寺の会計編～』をもとに、財産管理の基本を学び、透明で持続可能なお寺の運営に向けた第一歩をサポートします。

1 セミナー概要

お寺の会計に関する基礎を学ぶ全4回のセミナーです。動画形式で配信し、各回15分程度のコンパクトな内容になっていますので、ご自身のペースで学ぶことができます。

- ・ 形式：YouTube 動画（各回10分程度）
- ・ 内容：全4回でお寺の会計管理の基礎から年度末の決算作業までを順に学べます。

2 セミナーの目的

(1) 財産管理の基礎を学ぶ

寺院の財産がどのように管理されるべきか、基本的な会計管理の方法を学びます。住職や会計担当者が押さえておくべきポイントを解説します。

(2) 透明性を高め、信頼を築く

しっかりとした会計管理は、ご門徒との信頼関係を築くための重要な要素です。財産の使途を明確にし、健全な寺院運営を目指します。

(3) 実務的な知識を得る

知識を学ぶだけでなく、実際にお寺の運営に活かせる具体的な帳簿の記載や管理方法を紹介し、すぐに実践できる内容を提供します。

3 プログラム内容



第1回：会計の目的と年間の流れ

お寺の会計は、ご懇志による財産を適切に管理し、信頼を築くために欠かせません。会計の基本的な目的をはじめ、会計年度の仕組みや年間を通じた実務の流れを解説します。

第2回：会計処理の大前提と日々の業務

お寺の財産と個人の財産を明確に分けることが、会計処理の第一歩。現金や預金の管理、伝票や帳簿の記録方法、領収書等の保管など、日々の実務における基本的な処理の流れについて、解説します。

第3回：お寺の予算

予算の目的や作成時の注意点、一般会計と特別会計の違い、勘定科目の設定方法、予算超過や予算外支出の対処方法について、実務に即した内容で解説します。

第4回：決算書類の作成と所轄庁への提出書類

決算書類は、適切な報告と説明責任を果たすために重要です。収支計算書や財産目録の作成方法、提出書類の種類や提出先、注意点を解説します。

4 よくあるご質問

(1)『お寺の会計入門～お寺の会計編～』の冊子はどこにありますか？

本書は、2025年8月末に宗派内全寺院に送付しています。

また、寺院活性化支援室のウェブページには、本テキストのPDFデータもありますのでご活用ください。

[<https://jodo-shinshu.info/support/wp-content/uploads/2025/07/お寺の会計入門～お寺の会計編～.pdf/>]



(2) 会計担当者以外も視聴した方がよいでしょうか？

住職・寺族の会計担当者だけでなく、門徒役員の方々も学ぶことで、お寺全体で健全な会計管理が実現します。

5 お問い合わせ

- 電話番号：075-371-9208（平日 9:00～12:00/13:00～17:00）
- メールアドレス：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp
- 寺院運営活性化支援担当

支援事業6 - 場づくりワークショップ

寺院の教化活動の活性化を目指し、寺院と門徒、地域住民との関係性を深めるための様々なワークショップを提供しています。各ワークショップは、参加者同士の対話や学びを深めたり、新たなアイデアへつなげることを目的としており、寺院活性化支援員が場づくりをサポートします。

※ワークショップ：体験型の講座、グループ学習、研究集会など参加者の主体性を重視した研修・セミナー

1 対話型寺院運営ボードゲーム「別院会議」～あなたの次世代へつなぐ～

「別院会議」は、別院活性化の取り組みを経て開発された、対話型寺院運営ボードゲームです。【2025年グッドデザイン賞受賞】

このゲームは、仮想の別院を題材にしながら、別院に関わる人々（崇敬寺院や門徒）と地域の人々、また資金の増減を指標にしながら、別院や寺院の運営を通して「別院のこれから」をシミュレーションしながら考えていきます。

※ ゲーム内で使われる「別院」の言葉を「寺院」に置き換えることで、
1カ寺の運営の検討にも活用できます。



GOOD DESIGN
AWARD 2025



詳細は、浄土真宗ドットインフォ（ホームページ）内の「《対話型寺院運営ボードゲーム》「別院会議」～あなたの次世代へつなぐ～」（<https://jodo-shinshu.info/betsuinkaigi/>）をご確認ください。
（ゲームに必要な資料もホームページからダウンロードできます）



特徴

・リアルなシミュレーション体験：

10年後の伽藍維持が困難な状況を想定し、中長期的な視点から寺院運営を考える体験ができます。

・多様な視点での議論：

年齢や役職に関係なく、平等な立場で自由に意見交換が可能です。

・参加者主体の議論促進：

24枚の「行動カード」が議論を深めるガイドとして機能。参加者の主体的な話し合いを通して、最終的に6年後の別院（寺院）の状態が可視化されます。

標準的なプロセス	<p>1. 参加準備： 事前作業シートを使用し、参加者が個々の視点を整理します。</p> <p>2. ゲーム本編（約 60 分）： 「行動カード」を使い、6 年後の未来を見据えて議論を展開。1 年ごとに輪番役（決定者）が交代して、別院（寺院）の運営計画を決定していきます。 ※詳細は、リンク先の「ゲーム進行マニュアル」参照</p> <p>3. 事後のふりかえり： ゲームを経て、実際の別院（寺院）について話し合うための作業シートも用意しています。</p>
こんな場面でおすすめ	<ul style="list-style-type: none"> ・別院（寺院）運営の活性化を図りたいとき： 若い世代や門徒と意見を交わし、別院（寺院）の未来像を一緒に考えたいときに。 ・別院（寺院）の職員や役員間の意識共有を深めたいとき： 組織全体で中長期的な視点を持つための基盤づくりとして。職員研修としてもおすすめです。 ・地域住民や門徒とのつながりを強化したいとき： ゲームを通じて住民や門徒と一緒に新しい取り組みを考えるきっかけづくりに。 ・次世代を担う人の育成を目指したいとき： 多角的な視点で別院（寺院）運営を考える学びのヒントとして。
対 象	寺族、僧侶、門徒、地域の人
参加人数	3 人～（1 グループは 3 ～ 6 人）※複数グループでの実施も可能
所要時間	120 分程度 ※事前・事後のワークの内容によって変わります。ゲームのみの実施であれば 60 分から可能です。

別院活性化の取り組みと成果



・ 吉崎別院（蓮如上人御影道中） [情報ポータルサイト：https://jodo-shinshu.info/rennyo_top/]

・ 四日市別院 [対話型寺院運営ボードゲーム「別院会議」]

・ 井波別院 [『まちとつながるために』冊子参照]

・ 根室別院 [『お寺の開き方』冊子参照]



2 真宗トーク（コミュニケーションカード / オンラインアプリ）

「真宗トーク」は、対話を通じて自己や他者との関係を深めるために作られたシンプルながら効果的な対話ツールです。寺院の諸行事や同朋の会や座談の場など、参加者同士がお互いに心を開くきっかけづくりに寄与するコミュニケーションツールです。


対面で使用するカード版とオンライン上で使用するアプリ版の2種類があります。



	カード版（対面使用）	アプリ版（オンライン使用）
特 徴	<p>「真宗トーク」には、お題カード15枚と感想カード5種類（4人分）が含まれています。お題は3段階（アイスブレイク・自己と他者・人生）あり、自然と対話に引き込まれるように設計されています。</p> <p>初対面同士でも使いやすい「アイスブレイク」カードから始め、徐々に深いテーマに進む仕組みです。</p>	<p>カード版と同じお題が、Zoomなどのオンライン上で気軽に利用できます。</p> <p>参加者のスマートフォンをコントローラーに、カードをめくったり、感想を選んだり、発言を開始したりします。</p> <p>オンライン上で遠隔地にいる人々とも対話を味わえます。</p> <p>（QRコードを使ってアプリにアクセスしますので、インストールは不要です）</p>
標準的なプロセス	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（お題カードをテーブルに用意し、感想カードを参加者に配布） 2. お題カードを引き、お題について1分間のトークを行います。 3. 聞き手は感想カードから自分の感情に近いカードを選んで、なぜそのカードを選んだかを伝えます。 4. 全員が一巡するごとに次のお題に進み、全体で約30分から40分の対話を行います。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（ルール・操作説明） 2. お題カードをスマートフォンのコントローラーで引き、画面に出てきたお題について1分間のトークを行います。（画面に1分メーター表示） 3. 聞き手はスマートフォンのコントローラーで、自分の感情に近い感想カードを選んで、なぜそのカードを選んだかを伝えます。（選んだカードは画面に表示） 4. 全員が一巡するごとに次のお題に進み、全体で約30分から40分の対話を行います。
こんな場面でおすすめ	参加者同士が対等な関係で考えや価値観を交換し、寺院での行事や同朋の会などの集まりにご活用いただけます。	オンラインでの寺院の行事や同朋の会などの集まりでご活用いただけます。対面の場合も、テレビモニターなどに映し出すことで活用できます。
対 象	寺族、僧侶、門徒、その他＜小学生～大人＞	
参加人数	3人～（カード1セットで4人分、4人で1グループです）	
所要時間	30～40分	

3 言葉でふれあうトーク・フォークダンス

1対1の対話を繰り返しながら、異なる価値観や多様な考えに触れ、深い気づきを得ることを目指したワークショップです。対話を通じて、参加者が自然に心を開き、互いに尊重し合う豊かな対話の場を支援します。お題の展開を設計しますので、関係性を深めたい、新たなアイデア創出につなげたいなど、目的に応じた組み立てが可能です。

<p>特 徴</p>	<p>1. 二重の円形で進行（フォークダンスのような形になります。踊りません。）</p> <p>参加者は、二重の円を作り、内と外側の人が向かい合って座ります。ファシリテーターがお題を提示し、内・外側のペアでそれぞれ1分間ずつ自分の考えを語ります。その後、外側または内側の参加者が隣の席へと移動し、新たなペアで次の対話が始まります。この動きを繰り返すことで、多くの人々と意見を交換し、フォークダンスのように軽快に進行していきます。</p> <p>2. 段階式のテーマに基づいた対話</p> <p>身近な興味に関するテーマから、人生観や価値観など、深い思索を促す問いまで、様々なテーマで構成します。テーマに沿って自分の考えや感じたことを話し、それを聞くことで、対話を通じた気づきが生まれます。また、テーマの設計により、自己の内面を掘り下げたり、新たなアイデア出しにつなげるなど目的に応じた構成で編成することもできます。</p>
<p>標準的なプロセス</p>	<p>1. オリエンテーション</p> <p>ワークショップの趣旨やルールの説明をします。</p> <p>2. 対話の進行</p> <p>ファシリテーターがお題を出し、参加者は二重の円の中で1対1の対話を開始します。1分ずつお互いの考えを語り、その後、指定された側の円の参加者が隣の席に移動し、新たなお題で対話が始まります。</p> <p>3. まとめと振り返り</p> <p>最後に、感じたことや気づきを共有する時間を設けます。</p> 
<p>こんな場面でおすすめ</p>	<p>対話を通じて、異なる人々の考えや感じ方に触れることで、新しい視点を得ることができます。寺院の座談会や初対面の集まりで、相互理解を深める場として最適です。軽い話題から深いテーマまで、対話の内容は多様です。子どもと大人で対話するなどの場面でも、深い気づきが得られる対話を体験できます。</p>
<p>対 象</p>	<p>寺族、僧侶、門徒、地域の人＜小学生くらいから、子どもと大人や大人同士＞</p>
<p>参加人数</p>	<p>10～30人程度</p>
<p>所要時間</p>	<p>60～90分</p>

4 ワールド・カフェ

大人数の参加者がリラックスした環境で自由に意見交換し、共通のテーマについて深く考え、多くの視点を共有し、新しいアイデアや解決策を見つけない時に有効なワークショップです。



特 徴	参加者がテーブルを移動しながら、様々な視点からテーマを話し合います。テーマに基づく小規模な対話を促し交流することで全体の一体感が生まれます。参加者がカフェにいるようなリラックスした状態で話せる雰囲気を作ります。
標準的なプロセス	大人数で1つの方向性を導き出したいときや、複数のアイデアの種を集めたい場合に有効です。会の趣旨、目的や目標に応じてラウンドごとにテーマ（問い）を設定します。
こんな場面 でおすすめ	1. オリエンテーション 趣旨やルール説明、アイスブレイクなど 2. テーブルごとの対話 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1ラウンド：テーマについて探求する ・ 第2ラウンド：アイデアをやりとりする ・ 第3ラウンド：気づきや発見を統合する ※各ラウンドは標準的なものを掲載していますが、テーマに応じて変更します。 3. 全体セッション 気づきやアイデアを全体で共有します
対 象	寺族、僧侶、門徒、地域の人
参加人数	20～100人（1グループは4人ずつ）
所要時間	120～150分

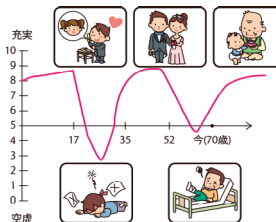
お寺でのワールド・カフェの開催事例（壮年会イベント）

<https://jodo-shinshu.info/2024/11/07/45408/>



5 人生グラフ（グラフで語る 出会いと気づきの人生物語）

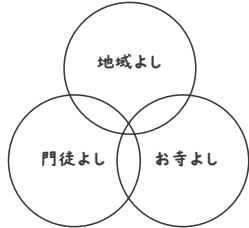
参加者が自身の人生における重要な出会いや転機を振り返り、それを共有し、他者との対話を通じて新たな気づきを得ることを目的としています。多様な人生経験を分かち合い、深い内省に導く時間を設けたい時に最適なワークショップです。

特 徴	人生の流れをグラフで可視化することで、自己理解と他者理解を深めます。視覚的な手法を用いることで、話しやすく、自己開示を促しやすい環境を作ります。
標準的なプロセス	<p>1. 出会いと転機の振り返り（個人ワーク） 出会いや転機を振り返り、その印象的な出来事や充実度をメモします。</p> <p>2. 人生グラフの作成（個人ワーク） 参加者は、振り返りの内容をもとに、横軸に年齢、縦軸に充実度を示したグラフを作成します。 このグラフをもとに、どのような瞬間が転機であったかを視覚的に捉えます。</p> <p>3. 対話を通じた共有（グループワーク） テーブルごとに、参加者が自身の人生グラフを発表し合い、それに対して他の参加者がリアクションや感想を伝えます。こうした対話を通じて、多様な人生経験を共有し、相互理解を深め、人生の尊さを味わいます。</p> <p>4. 出あいに学ぶ（全体への語りかけ） 親鸞聖人の人生における師との出あいや、人々とのつながりに学び、現代の私たちにとっての「出会い」の意義を考える視点を伝えます。</p> 
こんな場面でおすすめ	同朋の会や終活のワークショップなど、自分自身と向き合い、他者と深く交流したい場合に最適です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人生の節目を振り返りたいとき（人生の節目や転機を振り返ることで、これまでの歩みを見直し、生き方を考える機会として最適です）。 ・ お寺での座談会や同朋の会で（親鸞聖人の教えに基づく対話を深めるためのワークショップとして、寺院行事や座談会での活用が可能です）。
対 象	寺族、僧侶、門徒、その他＜大人向け＞
参加人数	3～20人
所要時間	90～120分

6 お寺版 三方よし

寺院、地域住民、門徒のそれぞれの視点から見て「よし」となるような取り組みを考え、僧侶と門徒が協力して、持続可能な関係や取り組みの方向性を検討するワークショップです。

※「三方よし」は、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の三つの「よし」のことで、売り手の都合だけで商いをするのではなく、買い手が心の底から満足し、さらに商いを通じて地域社会の発展や福利の増進に貢献できるのがよい商売という、近江商人（江州商人）の心得を表した言葉です。

特 徴	寺院の取り組みの方向性と、地域や門徒の多様な視点を織り交ぜることで共感や協力関係につながるアイデアを創出します。寺院の役割を再認識し、寺院の存在意義を確かめることにもなります。
標準的なプロセス	「みんなのお寺とはどんなお寺か？」をテーマに、寺院を多角的に確かめ、寺院と地域社会が協力して新たな活動を始めたい場合に最適です。
こんな場面 でおすすめ	<p>1. オリエンテーション 趣旨・ルール説明・アイスブレイクなど</p> <p>2. テーブルごとにワーク</p> <p>①「お寺よし」「門徒よし」「地域の人々よし」の3つの視点でふせんに書き出します。(個人ワーク)</p> <p>②模造紙を使って、テーブルのメンバーとふせんを共有します。(グループワーク)</p> <p>③それぞれの意見からどんなことが言えるのか対話します。(グループワーク)</p> <p>3. 振り返り 気づきの共有など</p> 
対 象	寺族、僧侶、門徒、地域の人＜大人向け＞
参加人数	10～30人（1グループは4～6人ずつ）
所要時間	90～120分

7 その他、目的に応じたワークショップを用意します

上記以外にも、課題・目的・ニーズに応じたワークショップを企画・実施サポートしますので、ご相談ください。

8 ワークショップ開催をご希望の場合

ワークショップ開催の希望、目的や条件に合わせた組み立ての事前相談から、寺院活性化支援員の派遣まで行います。詳しい内容については、お問い合わせください。

- 電話番号：075-371-9208（平日 9:00～12:00 / 13:00～17:00）
- メールアドレス：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp
- 寺院運営活性化支援担当

支援事業 7 - 青少幼年教化支援

お寺と子ども・若者の架け橋

寺院活性化支援室では、子どもや若者と共に教えを聞く寺院での教化活動をサポートしています。少子化が進む昨今、「子どもや若者とご縁を結ぶのは難しい」という声もよく聞こえてきます。しかし、地域とつながり、次世代に教えのバトンを渡す縁づくりともなる青少幼年教化は、寺院や僧侶にとって大切な取り組みです。支援室では、お寺の状況に合わせた子どもや若者との出あいの場づくりを「はじめの一步」から伴走します。

1 青少幼年教化の現状

真宗大谷派の第8回「教勢調査」(2024年)によると、青少幼年教化の取り組みは全国的に低下している現状があります。例えば、子ども会(日曜学校)の設置率は10.4%、青年会の設置率は2.0%と低い数字です。一方で、「若者を対象としたつどいや聞法会」、「子ども会」に今後取り組んでみたい寺院の数は1割を越える他、「青年会(若者対象の会)」、「子ども報恩講」、「初参り式」、「花まつり」などに今後取り組んでみたい寺院も一定数あり、青少幼年教化の今後の可能性が読み取れます。

2 青少幼年教化支援の目的

御本尊に手を合わせ、住職・僧侶と共に教えを聞いて歩む子どもや若者が“一人”その寺院に誕生することが、青少幼年教化の願いです。そして、その場づくりを伴走しながらサポートすることが青少幼年教化支援の目的です。

3 支援の内容

青少幼年教化支援では、寺院の状況に応じたサポートを行っています。具体的な支援内容は、以下の通りです。

ヒアリング：支援員が寺院に出向き、現状の課題や希望を丁寧に聞き取ります。

プランニング：寺院と共に青少幼年教化の場づくりを考え、企画を立てます。現場の状況に合わせて、形にとらわれず無理なくできる活動を寺院に関わる皆さんと考えていきます。

スタッフ連携：企画の立ち上げにおいては、必要に応じて、青少幼年センターや教区教化委員会などとの連携を図り、活動をサポートします。

4 支援のポイント

- (1) 無理なく実践可能な方法の提案：お寺の規模や地域の特性に合わせて、無理のない形で活動をスタートできるようにサポートします。
- (2) 既存の組織との連携：すでに存在する教化組織（青少年センターや教区教化委員会、児童教化連盟など）と連携し、継続的な活動ができるようにサポートします。

5 これまでの事例

こちらの取り組みレポートをご参照ください。

[<https://jodo-shinshu.info/category/seisyoyounenkyouka/>]



他にもデータを活用した教区の青少年教化支援の取り組みサポートも行っています。

「寺院活動における青少年教化活動の実態調査」分析報告

[<https://jodo-shinshu.info/2021kyushu-sy-survey/>]



6 こんな寺院におすすめ

- ・ 子どもや若者との接点が少なく、教化活動をどのようにはじめたらいいかわからない
- ・ 現在の仏事や法要の場を青少年教化につなげたいと考えている
- ・ 少人数からでもはじめられる教化活動に取り組みたい

7 関連事業（青少年センター）

- ・ 関連プロジェクト1：ひとりからはじめる子ども会講習会（次頁参照）
- ・ 関連プロジェクト2：若者教化立ち上げ応援プロジェクト（28頁参照）

8 お問い合わせ

- 電話番号：075-371-9208（平日 9:00～12:00 / 13:00～17:00）
- メールアドレス：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp
- 青少年教化支援担当

ひとりからはじめる子ども会講習会

～小さな一歩から広がる、子どもたちの笑顔の場づくり～

「ひとりからはじめる子ども会講習会」は、これから子ども会を立ち上げてみたい方や、すでに活動しているけれど継続の力を得たい方を対象に、具体的な体験を通して学び合う場です。寺院や教会が子どもたちの居場所として開かれることを願い、「無理なくできる」実践を大切にしています。

1 目標

- ・ひとりからでも始められる実感を持つこと
- ・子ども会活動の楽しさと魅力を体験的に学ぶこと
- ・参加者同士の交流を通して、安心して相談できる仲間を得ること

2 特徴

- ・模擬的に子ども会を体験しながら、「こんな活動ならできそう」という具体的イメージをつかめます。
- ・絵本や紙芝居、ゲーム、食事づくりなど、子どもと一緒に楽しめる工夫を実際に体験できます。
- ・座談会や企画演習を通して、自坊や地域に合った子ども会の形を考えられます。

3 こんな方におすすめ

- ・「子ども会を立ち上げたいが、どう始めていいかわからない」
- ・「これまで活動してきたが、工夫を加えて継続したい」

4 規模・進め方

1 グループ：5～6人程度で班を構成

所要時間：1日研修（模擬子ども会、絵本・紙芝居体験、ゲーム体験、企画づくり、振り返りなどを含む）

5 特色あるプログラム例

- ① 模擬子ども会：自己紹介ゲームや簡単なお勤め、法話を含め、子ども会の流れを体験
- ② 絵本・紙芝居体験：読み聞かせの方法や活用法を学ぶ
- ③ ゲーム実習：子どもと一緒に楽しめる遊びを体験（ゲーム集の活用も紹介）
- ④ 班別企画演習：オリジナルの子ども会企画を作成し、発表
- ⑤ 安全管理・お役立ち情報：子ども会運営に必要な知識を学ぶ

6 参考教材（青少幼年センター発行）

『子ども会開設の手引き ひとりからはじめる子ども会』

[https://jodo-shinshu.info/oyc/child/pamphlet/pdf/child_pamphlet_2023.pdf]



『ひとりからはじめる子ども会ゲーム集』

→ 45 種類のゲームを収録（PDF データ公開）。

司会者ひとりで実施できる 23 種類は、動画版も公開。

[<http://jodo-shinshu.info/oyc/child/movies/>]



7 おすすめポイント

- ・ 研修会の雰囲気は「明るく、楽しく」、立ち上げる力を応援する内容です。
- ・ 「まずはひとりから」という現実的な視点を大切にしています。
- ・ 終了後すぐに子ども会活動に活かせるアイデアと仲間が得られます。

8 お問い合わせ

青少幼年センター

- 電話番号：075-354-3440（平日 9:00 ～ 12:00 / 13:00 ～ 17:00）

- メールアドレス：oyc@higashihonganji.or.jp

- ホームページ：https://jodo-shinshu.info/oyc/



若者教化立ち上げ応援プロジェクト

～若い世代とともに歩む、新しい一歩を応援します～

お寺に若者のお参りが少ない。青年会を立ち上げたい。そんな思いを形にするのが、この「若者教化立ち上げ応援プロジェクト」です。

仏法を共に聞き合う仲間を得て、世代を超えてお寺が開かれる場を広げていくことをめざします。

プロジェクト詳細 [<https://jodo-shinshu.info/ojc/youths/>]



1 目標

- ・ 若者世代とつながり、共に仏法を聞く場をつくる。
- ・ 無理のない形で若者が参加しやすい企画を立ち上げる。
- ・ お寺の未来を担う世代が主体的に関われる場を育む。

2 特徴

- ・ 自由な発想で企画できる
必ずしも「〇〇の会」という形でなくてもよく、座談や法話の場、行事の一部など多様な形で実施できます。
- ・ 身近な一人から始められる
地区に若者が一人しかいない場合でも、その方と一緒に勤めや語り合いから始めることが可能です。
- ・ お寺の空間を活かせる
御本尊の前で過ごす時間が、若者にとって貴重な体験となります。内容に応じて地域会館や学校など柔軟に会場を設定できます。

3 おすすめの場面例

- ・ 子ども会経験者との再会から始める青年の集い
- ・ 法要や地域行事にあわせた若者交流企画
- ・ 「おみがき」や勤行をきっかけとした集まり

4 規模・進め方

人数：数人から開始可能。無理なく小さく始められます。

所要時間：企画に応じて設定（例：お勤め＋法話＋食事＋フリートークで2時間程度）。

5 実施の流れ

- ① 青少幼年センターへ相談
- ② 申込書を提出
- ③ お寺で企画会議・準備 ※要望に応じ、支援員やスタッフを派遣
- ④ 若者教化の事業を実施
- ⑤ 報告書を提出
- ⑥ 助成金の支給

6 支援内容

- ・ 必要に応じて、企画段階から支援員を派遣します。
- ・ 若者向け法話「50のストーリー」など、すぐに活用できる教材を提供しています。
- ・ 助成制度（※55,000円・1回限り）を活用して、活動を継続しやすい環境を整えます。

※ 冊子発行時点（2025年度）の助成額

7 おすすめポイント

- ・ 一人からでも始められる、現実的で実践的なサポート。
- ・ 「若者が求めていること」を理解した上で、無理なくつながれる工夫。
- ・ 立ち上げから継続までをトータルに応援します。

8 お問い合わせ先

青少幼年センター

- 電話番号：075-354-3440（平日 9:00～12:00 / 13:00～17:00）
- メールアドレス：oyc@higashihonganji.or.jp
- ホームページ：<https://jodo-shinshu.info/oyc/>



支援事業 8 - 過疎地域対象の法要・法話支援

未来へつなぐ仏法の灯

過疎地域の寺院では、門徒の減少や家族間のつながりが希薄化し、寺院活動が困難な状況に直面しています。しかし、寺院は地域の心の拠り所としての役割を果たす大切な存在です。

そこで、寺院活性化支援室では、過疎地域の寺院が地域住民や門徒との関係を結び直し、仏法を未来へつなぐために法要・法話の場を開くための支援をしています。

1 過疎地域寺院の現状

人口減少が進む過疎地域の寺院では、以下のような課題が浮き彫りになっています。

- ・ 郷里を離れた門徒との関係が希薄化し、法要や行事への参詣者が減少している。
- ・ 世帯の分散により、仏法の家族間継承が難しくなっている。
- ・ 地域コミュニティが崩壊し、寺院の存在意義が薄れつつある。

これらの課題に対応し、次世代に仏法を継承していくための取り組みが必要です。

2 過疎地域寺院教化支援の目的

過疎地域の寺院がこれまで行ってきた教化活動や儀式を大切にしつつ、門徒や地域住民との関係性を再構築することを目指しています。この支援は、寺院が次世代にとっても「なくてはならない存在」となり、真宗の教えが未来へとつながるように支援することを目的としています。

3 支援内容

過疎地域の寺院のニーズや現場の声に応じた支援を提供しています。具体的な支援の流れは以下の通りです。

- ・ **ご 相 談**：まずはお電話やメールでご相談ください。
- ・ **ヒアリング**：支援員が寺院を訪問し、住職・寺族や門徒の思いや課題を丁寧にお伺いします。必要によりオンラインでのヒアリングも対応可能です。
- ・ **支援策提案**：聞き取り内容に基づき、寺院の状況に最も適した支援策を共に考えます。内容に応じて、法話会の開催や法話者の派遣など、具体的な活動を提案します。
- ・ **助成事業案内**：法要や法話会の助成金を活用する場合は、詳細な説明をします。

4 支援のポイント

- ・ **柔軟な対応**：それぞれの寺院の状況を丁寧に聞き取り、現場にあった支援につなぎます。また、法話者の派遣や助成金の活用もサポートします。
- ・ **つながり支援**：寺院の歴史や伝統を尊重しながら、地域を越えた門徒との関係性を深める取り組みを共に考えます。
- ・ **連携と協力**：教区や他の寺院との連携・サポートを得て教化活動を推進します。
- ・ **助成金制度**：離郷門徒のつどい・ふるさと法要、地域連続法話会、お寺に寄り添う講師派遣といった、各種助成金制度があります。

5 助成金の内容

各種助成金の内容は、下表のとおりです。助成要項並びに申請につきましては、お電話またはメールによりお問い合わせください。

取り組み	こういう寺院におすすめ	助成事業
街中出張法要	<ul style="list-style-type: none"> ・街に移住した門徒との関係性をつなぎたい ・住職・寺族が出向くことで、市街地に住む門徒にも参詣しやすい形で勤めたい ・都市部に別院などの使用可能な会場がある 	離郷門徒のつどい ¥100,000- (所定の申請書あり)
ふるさと帰省法要	<ul style="list-style-type: none"> ・移住門徒が正月やお盆など、地元へ帰省する習慣がある ・境内墓地・納骨堂のみの関係から法座の縁につなぎたい ・移住門徒にふるさとの寺院へ親しみをもってほしい 	ふるさと法要 ¥100,000- (所定の申請書あり)
地域連続法話会 ※2カ寺以上	<ul style="list-style-type: none"> ・1カ寺の単独開催だと人が集まりにくいので、複数カ寺で協力して法座を開きたい ・地元へ密着し、教えに触れたい人々に継続的な聞法場を開き、新しい聞法仲間との出会いの場にしたい ・新しい共同教化の形をつくりたい 	地域連続法話会 ¥100,000- (所定の申請書あり)

+

講師・法話者派遣	上記事業実施にあたり学びたいテーマに即した講師を派遣してほしい	お寺に寄り添う講師派遣 ¥50,000-
----------	---------------------------------	-------------------------

<助成要件>

「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」において、全部過疎、一部過疎、みなし過疎及び特定市町村に指定された市町村に含まれる寺院・教会が助成対象です。

【助成回数の上限：1事業につき、年度内1回】

6 これまでの実績

こちらの取り組みレポートをご参照ください。

https://jodo-shinshu.info/category/ganbaru_entry/area-connection/kaso-kamitu/



7 こんな寺院におすすめ

- ・郷里を離れた門徒とのつながりを回復したい寺院
- ・法話会や聞法会を開催したいが、講師選びに悩んでいる寺院
- ・過疎地域の課題を共有できる仲間が欲しい寺院
- ・お寺の将来について、地域の方々と共に考えたい寺院
- ・お寺の存続について悩んでいる寺院

8 お問い合わせ

過疎・過密地域寺院教化支援について詳しく知りたい方は、お気軽にお問い合わせください。ご相談いただいた後、寺院の現状に最も適した支援プランを提案します。

- 電話番号：075-371-9208（平日 9:00～12:00 / 13:00～17:00）
- メールアドレス：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp
- 過疎・過密地域寺院教化支援担当

支援事業 9 - お寺の法宝物調査支援

「お寺の法宝物調査支援」は、お寺の法宝物や文化財等を調査し、お寺の歴史や魅力を再発見するための支援です。

1 支援の概要

御本尊や絵像、御聖教や古文書、さらには香炉や仏具など、様々な法宝物を調査します。この調査を通じて、お寺の歴史や由来を明らかにし、住職やご門徒のみなさんが、お寺の新たな魅力を見つけていただけることを目指しています。

2 支援の内容

(1) 宝物の調査とアドバイス

お寺に所蔵される法宝物や史料を現地で調査し、適切な保存方法の提案やアドバイスを行います。

(2) パンフレットや目録の作成

調査結果をもとに、A4 サイズのカラーパンフレットや目録を作成し、1 部贈呈します。データ形式でもお渡ししますので、必要に応じて各寺院でプリントアウトやネット印刷が可能です。

(3) 調査費用：無料

3 調査の流れ

- (1) お申込みいただいたお寺に、支援室及び聖教編纂室の職員などが調査に伺います
(半日または終日お時間をいただきます)
- (2) 調査記録をもとにパンフレット・目録を作成します（およそ2か月かかります）
- (3) プリントアウトしたパンフレット・目録及びデータを送付します

4 こんな寺院におすすめ

- ・ お寺の沿革を知りたい
- ・ お寺にある法宝物にどんな由来があるかを知りたい
- ・ お寺の法宝物を整理したい

5 要項・注意事項

寺院活性化支援室ウェブページの「要項・注意事項」をご覧ください。



6 お問い合わせ・お申し込み

- 電話番号：075-371-9208（平日 9:00～12:00 / 13:00～17:00）
- メールアドレス：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp
- お寺の法宝物調査支援担当

<パンフレットイメージ>



支援事業 10 - 解散寺院の仏法継承支援

過疎地域では、地域社会の崩壊に伴い、寺院においても仏法の継承が困難になっています。寺院活性化支援室では、過疎地域の寺院がやむを得ず解散・合併を迎える際に、地域に寺院が「存在してきた意味」を大切に受け止められるよう支援します。

1 仏法継承支援の目的

寺院が聞法道場としての役割を最後まで全うできるよう支援し、解散後も聞法環境が継続するよう、新たなお手次ぎのお寺へつなぎます。

2 支援の内容

相談に応じて支援内容を検討します。

これまで、以下のような支援を行ってきました（参考例）。

① 聞法の橋渡し（法話会）支援

地域住民や門徒を対象とした聞法場の場づくり（最後の教化事業）を支援します。

また、解散後も聞法環境が継続するよう、新たなお手次ぎのお寺での聞法の場づくり（最初の教化事業）を支援します。

② 歴史の橋渡し（記録資料）支援

地域や寺院が所蔵する文献や写真等の史料整理と、それらをまとめた記念誌などの記録資料作成を支援します。ご門徒や関係者に配布することで、寺院の記録を後世に遺すことができます。

③ 最後の法要（解散法要）支援

解散法要の開催にあたって、表白文や式次第の作成、講師派遣などの支援をします。

3 支援の流れ

（1）相談の窓口

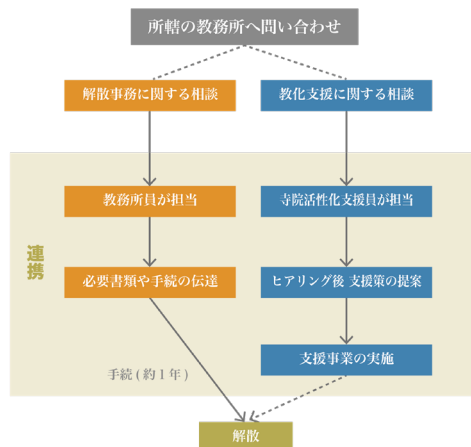
まずは、所轄の教務所までご相談ください。

（2）ヒアリング

支援のニーズをお聞きします。

（3）支援の実施

解散・合併の手続きを進める過程で、教務所と連携して、お寺の現況に応じた支援をします。



4 これまでの実績

実績内容は、浄土真宗ドットインフォ（ホームページ）をご参照ください。

[<https://jodo-shinshu.info/2022/03/19/32175/>]



5 留意事項

- ・ この支援は、合併や解散を推奨するものではありません。
- ・ 解散に至るまでの教化事業の支援です。解散合併に係る事務手続きについては、教務所で対応します。
- ・ お聞きしたお寺の情報は、教務所と共有し、連携して支援活動を進めます。なお、その情報は、事務手続き及び支援活動の目的以外に使用することはありません。

6 お問い合わせ

- 電話番号：075-371-9208（平日 9:00 ～ 12:00 / 13:00 ～ 17:00）
- メールアドレス：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp
- 過疎・過密地域寺院教化支援担当

よくある質問

1. 寺院活性化とは何ですか？

私たちの取り組む「活性化」の意味するところは、「そのお寺らしさが発揮される」ということです。規模の大小に関わらず、「そのお寺ならではの」という特徴が表現されていることが大切です。人を集めるイベントだけではなく、僧侶や門徒、地域の人々が一緒にそのお寺らしさを再発見し、一歩を踏み出すことが「活性化」です。

2. 寺院活性化支援とはどのようなものですか？

私たちのサポートは、お寺に関わる人々が1つのチームとなり、自らが主体となって考え、メニュー作りをしていくためのノウハウや考え方を提供します。

3. なぜ寺院活性化支援室の活動が始まったのですか？

2012年の第7回「教勢調査」で、少子高齢化や価値観の多様化、参詣者の減少などの課題が浮き彫りになりました。しかし、僧侶と門徒が定期的にコミュニケーションを持つ寺院では、持続的な教化活動が行われていることも明らかになりました。

また、2013年の「中央同朋会議」を経て、寺院が地域に「なくてはならない」存在になるための原点を確かめ、〈共学・共創〉の場を作り出すため、教化の現場へ「出向く」活動が始まりました。

4. 支援員はどのような役割を果たしますか？

支援員は、お寺の状況や課題、ニーズを丁寧に聞き取り、その寺院の強みを引き出し、共に具体的なプロセスを考えます。

5. 支援先の対象範囲はどこですか？

1カ寺単位の支援から、複数の寺院（組や地区）単位の支援にも対応しています。相談内容に応じて柔軟に対応いたします。

6. 支援はどのくらいの期間続きますか？

事業が実施されるまでを1つの目安としていますが、その後もご相談いただけます。

7. 支援を受けるための条件はありますか？

真宗大谷派の寺院であることが条件です。

8. 支援を受ける際に費用はかかりますか？

費用はかかりません。ただし、事業で使用する物品等はお寺で支弁いただきます。

9. 支援員派遣のための書面手続などは必要ですか？

特に手続きは必要ありません。まずはお気軽にお電話、メールなどでご相談ください。

10. オンラインでの相談は可能ですか？

Zoom などのオンラインでの相談にも対応しています。遠方の方でも気軽にご相談いただけます。

11. ヒアリングはお寺に来てもらう必要がありますか？

支援員が直接お寺に伺うことで支援の検討がしやすくなります。ただし、状況に応じてオンライン会議（Zoom 等）、電話やメールでのヒアリングも可能です。

12. 支援後のアフターサポートはありますか？

事業終了後も、引き続き相談を受け付けております。必要な場合は、ご相談ください。

13. どれくらいの活動実績がありますか？

寺院活性化支援室の活動実績は約 800 カ寺です（2025 年 7 月現在）。
なお、これまでの支援実績や事業内容は、浄土真宗ドットインフォ（ホームページ）でご確認ください。[<https://jodo-shinshu.info/category/shienshitsu/>]



14. お寺の後継者探しも支援してもらえますか？

後継者探しについては、組織部（教務）の「総合相談室」を紹介しています。その他、相談内容に応じて、適切な窓口を可能な限り案内します。

15. 本山と教区、どちらの支援室に問い合わせたらよいですか？

本山（真宗教化センター寺院活性化支援室）と教区寺院活性化支援室は連携していますので、どちらにご相談いただいても対応可能です。最適なサポートにつなげます。

16. お寺の情報はどのように守られますか？

支援員が知り得たお寺の情報は、支援活動のみに使用し、第三者に口外することは一切ありません。ウェブサイトや SNS での公開時も、必ず事前に同意を得て行います。

17. どこに問い合わせればよいですか？

以下の連絡先まで、お問い合わせください。

- 窓口：しんらん交流館 企画調整局内「真宗教化センター寺院活性化支援室」
- 電話番号：075-371-9208（平日 9:00 ～ 12:00 / 13:00 ～ 17:00）
- メールアドレス：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp

発行日 2025年11月1日

発 行 真宗大谷派宗務所 企画調整局 真宗教化センター寺院活性化支援室
〒600-8164

京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町 199 番地
真宗教化センターしんらん交流館内

電 話：075-371-9208

E-MAIL：kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp

寺院活性化支援室

～支援事業のあらし～

真宗教化センター寺院活性化支援室